

第1回京都市観光振興審議会

主なご意見

日 時 平成26年3月14日（金）午前10時～正午

会場 京都市役所寺町第1・2会議室

・ロンドンではオリンピックを契機に観光の在り方が様変わりした。京都においても、官民が強く連携しながら、観光という領域を広くとらえ、京都の魅力を高め、多くの方に来ていただく街になるように取組を進める必要がある。

・京都はどこが他の都市と本質的に異なるのかを検討し、京都は何を訴えていくかを真剣に考えていく必要がある。

・京都の歴史・景観・伝統文化・伝統産業などは非常に長い歴史・時間をかけて醸成されるものである。これらを切り売りするのではなく、未来に継承していこうとする姿勢が、多様な京都の魅力を形成している。この空間、文化を大事にしなければならない。

・観光の質を高めることが結果として量を引き寄せる。満足度を高めるだけでなく、経済的な波及効果も高めていかないといけない。

・世界から尊敬される京都を目指し、それが観光の成果として京都市および市民に返っていく。観光が経済的に発展していくことにより社会全体が利益を得て共に発展していく形が目標になる。それが最終的に京都のブランド価値の向上につながり、市民が豊かさを実感でき市民の理解を得ることができる。

・京都には暮らしの中にも魅力がある。住んでいる皆さんが生活の中で大事にしているものをどう表現して伝えていくのか。そこにどこまで協力してもらえるのか。地域市民と一緒に観光を作り上げていくことが大事である。これらが観光客の100%の感動につながる。

・京都の魅力の「伝え方」を考えなければいけない。京都の魅力が十分には伝わっていない可能性がある。相手の目線で伝えることが重要である。

・京都の魅力を理解するにはリテラシーや、京都ならではの知識や作法などが必要だ。それを持ち合わせない相手にどう京都の魅力を伝えるのかを考える必要がある。

- ・地元京都の知識をしっかり身につけた観光に関わる人材を育成し、残していくことで、多様で創造的な観光サービスを展開することができる。

- ・京都のことをどれだけきちんと発信できるかということが、非常に大事である。また、子どもの教育についても、日本の文化であるお茶やお花など感性を磨く教育を大事にし、世界を知ることによって人を迎える観光都市としての意識と自覚を促すことができる。

- ・観光に携わる方々、市民も含め、「このままで良い、十分お客様が来てくれている」と思っておられる方々を巻き込んで、どのように熱くするか。危機感を持つことで、新しいものを作ることができる。さらには、観光客が滞在することによって、外部の人からの様々な声や目を意識することができる。

- ・京都にはキラークンテンツが多いが、京都に泊まって感得して体験する方が少ない。町家等を商品化し長期的に滞在しながら京都の良い点を多岐に渡って味わっていただけるしくみが必要だ。